

## 第2回 JR 加古川線（西脇市－谷川間）維持・利用促進ワーキングチーム会議要旨

日 時 令和8年2月5日(木)14:30～16:16

場 所 丹波市山南住民センター2階集会室

出席者 別添出席者名簿のとおり

### 内 容

#### <開会挨拶>

##### 【片山委員（西脇市長）】

大阪・関西万博の期間中、JR西日本において西脇市駅から谷川駅間の臨時増便など、利用しやすい環境づくりについて特段のご配慮をいただいた。また、地域においては、本日オプザーバーでお越しいただいた藤原会長の「JR加古川線（西脇市駅-谷川駅）維持・利用促進地域協議会」を中心に市域を越えて連携し、沿線住民の鉄道利用の呼びかけやイベントの実施などの活動をしていただいた。

最近の新聞を見ると、JR西日本の今年度4～12月期決算が史上最高とのことで、万博終了後も、好調を維持されていることに感謝申し上げる。また、昨年、JR西日本より発表された万博期間中の輸送密度は、前年の輸送密度から約20%増の350人となり、コロナ前の2019年を大きく上回る伸びとなった。これは本当にJR西日本をはじめ、地域の皆様、関係者の皆様の利用促進における尽力の賜物である。

12月には県議会、市議会から「JRローカル線の維持に向けた国の積極的な関与と支援措置を求める意見書」が提出された。さらに、先月29日に服部副知事をはじめ、県内4ローカル線沿線市町の皆様と共に国土交通省への要望活動と意見交換を行った。地域、議会、行政がそれぞれの役割を持って進んでいることについて大変力強く感じている。今後も引き続き、本日も集まりの皆様と共に利用促進に取り組んでいく。

#### <資料説明>

##### 【平田委員（JR西日本（株）兵庫支社長）】

資料1：加古川線ご利用状況説明資料〔西日本旅客鉄道株式会社〕

弊社は、輸送密度二千人未満の線区については、大量輸送という観点において鉄道の特性が十分発揮できていないと考えることから、地域の皆様と一緒に、現状と未来をしっかりと見据えながら、地域の公共交通の将来像を共に考えたい。また、できるだけ早期にそうした議論をスタートさせたいと考えている。

今回、大阪・関西万博を誘客の機会と捉えて、利用促進策を様々実施してきたが、外からの誘客を示す普通切符ももちろん伸びているが、地域の方が利用する定期券利用が、非常に増加している点が新しい発見だった。特に黒田庄駅の通学定期利用者が多かった。

## 【藤原オブザーバー（JR 加古川線（西脇市駅－谷川駅）維持・利用促進地域協議会長）】

資料 2：令和 7 年度の主な取組結果（P6）

JR 加古川線（西脇市駅-谷川駅）維持・利用促進地域協議会は、令和 6 年 6 月に沿線住民で構成する 3 つの地域自治協議会「比延地区自治協議会」「黒田庄まちづくり協議会」「久下自治振興会」が集まり、加古川線の維持・存続に向けて、住民への呼びかけや利用促進事業等を行うために発足した団体である。

令和 7 年度の当協議会の取組の主なものについて説明する。

1 つ目は緊急応援企画として、利用増加に向けた勢いを見せたいという期待に応えようと、10 月 1 日から万博最終日 10 月 13 日までの間に乗車された方を対象に、黒田庄和牛など豪華景品が当たる抽選会を企画した。抽選会には 63 名が参加、延べ 360 回くらい抽選したが、抽選会に来られなかった人も含めると、さらに多くの皆さんに乗車していただいたと思う。

2 つ目は、加古川線乗車啓発チラシを作成し、9 月 13 日（土）に「西脇市茜が丘複合施設 Mi raie(みらいえ)」と、「たんば恐竜博物館」で啓発チラシやグッズを地元住民に手渡しで配布し街頭啓発を行った。子供連れの保護者から「この子らの未来のためにも加古川線を残してほしい。ぜひ私たちも乗って協力させていただきます。」といった言葉もいただいた。

3 つ目はリレーマルシェで、万博期間中そして終了後も、地域内外の人に楽しみながら加古川線に乗ってもらおうと、行政と我々そして地域住民が一緒になって駅周辺でのイベントを開催した。資料記載以外にも、各協議会独自イベントも開催しており、多くの方々に JR 加古川線に乗って来場していただいた。

4 つ目の啓発資材の作成では、協議会発足の令和 6 年度に横断幕を作成、今年度は「地域で残そう、みんなの加古川線」というメッセージ入り懸垂幕も作成した。コミュニティーセンターなどに掲出し、利用啓発を図っている。

また、今年度も啓発チラシを西脇市、丹波市に全戸配布するなど、地域住民への啓発に力を入れた。地域協議会の 3 地域をつなぐ沿線サイクリングマップは 2 月中に完成予定で、今後、3 協議会が連携しているレンタサイクル事業での沿線周遊促進に活用したい。

また、万博期間中の約 16 週間にかけて地域住民が、毎日西脇市駅から谷川駅に乗り、利用実態調査を行った。延べ 200 人を越える地域住民が調査に関わってくれ、万博開始の 4 月中旬と万博終了の 10 月中旬を比較すると、利用者数が 1.6 倍になった。これは地元が本気で取り組んだ成果である。JR 西日本が実施した増便効果も大きかった。先ほどの JR 西日本から定期券購入者が増加しているとの説明があったが、増便により帰宅しやすくなった高校生の乗車が大変多かったように記憶している。

昨年 11 月 8 日（土）、約 120 名の地元住民や行政関係者に集まっていただき、「JR 加古川線もっと乗ろうやない会」と銘打った報告会を開催した。一人でも多くの地元住民が「自分事」として加古川線の問題を考え、行動することによって、加古川線を次世代へ繋いでいきたい。

西脇市、丹波市が行う「団体利用助成」では、住民に対して市への申請支援を行うなど、行政と連携した取組も行っている。今後も引き続き、関係団体と連携しながら、住民の鉄道利用の呼びかけなどの取組を進めていきたい。

## ＜事務局説明＞

資料2：令和7年度の取組結果

資料3：令和8年度の取組(案)

## ＜意見交換＞

### 【池内委員（(株)ウイング神姫 代表取締役社長）】

今年度のワーキングチームの取組で特に気になったのは、定期券購入、自転車貸出、駐車場利用料金支援と団体利用助成である。これらの事業は一過性のものではなく、日常利用支援であり、地域住民をターゲットにしている。当社も兵庫県下の人口が少ない山間部で路線バスを運行しているが、集客が見込める観光地等が少ないため、最も利用しているのは地元の方々である。イベント等で一時的に地元以外からの乗客が増える日もあるが、基本的には地元の通勤利用者や学生、高齢者の方々への利便性を高めなければならないと感じている。

最近では、地域によって外国人労働者、地元在住の外国人の乗車も増えている。その外国人労働者を雇用する企業の意見や要望を聞く場を設けるなどして、実際に利用者が感じていることや要望を深掘りしていきたい。

バスと鉄道では異なるかもしれないが、利用者の目線、住民が、本当は何に困っていて、どういう移動手段があれば、将来安心して暮らせるのかを本音で話し合うことが、持続可能な交通手段をつくる鍵の一つだと考えている。

### 【長尾委員代理（神姫バス（株）内山 地域事業本部本部長補佐）】

観光という立場から提案させていただく。姫路市夢前町に、神姫バスの路線バスを廃止して、コミュニティバスが一日に数本走っている地域がある。その地域の方から、「夢前町内に七福神が奉られている寺があり、姫路市の中心部あるいは阪神間から誘客できないか」との提案を受けた。4月にモデル的にツアーを2種類企画するが、今まで観光地が無かった地域の集客のきっかけにならないか期待している。

七福神で一番成功しているのは淡路島で、年間約2万人が訪れる。きっかけは、約40年前に七福神のお寺の住職が危機感を持って始めた。新しい観光地を作り出すことはできると思う。西脇市駅と谷川駅の間には7つの駅がある。それぞれの地域で七福神などを作って何かできないか。巡礼でも、一つやり始めると全てを巡るまでやめない方が多い。JR西日本の「駅からはじまる西国三十三所めぐりデジタルスタンプラリー」のようなことができないかと思っている。

もう一つ、恐竜というツールがあるので、7つの強い恐竜を使って駅でスタンプや御朱印がもらえる、御城印や御船印を集めるなど、そういう仕掛けができないか。PRに関しては協力させていただく。

### 【矢納委員代理（西脇商工会議所・時政専務理事）】

先ほど藤原会長から発言があったが、「なんとかこの鉄道を後世に残したい」という思いは全く同じである。一度無くしてしまったら、復活できないという思いである。

平田支社長に訊ねたいが、万博期間中の輸送密度から判断して、「利用の増加に向けた勢い」が認められたものと判断でよろしいか。

私共や事業者からしても、なんとか鉄道の存続に努めたいという思いである。

#### 【岡林委員代理（丹波市商工会・四方事務局長）】

万博期間中の輸送密度が 20%増加ということで、非常に大きな成果を出したのではないかと。工夫をすれば成果は出るという実例である。通学・通勤定期券の利用者が増えたのは、支援制度の効果もあるが、なぜ増えたのかという要因分析をしっかりとすることで、まだ伸びる可能性はあるのではないかと。地元商工会としても、この加古川線は単なる移動手段ではなく、地域経済、地域の暮らしを支える上で重要であるという認識であり、ワーキングチームには今後も引き続き、関係団体と協力して利用促進に努めてもらいたい。

丹波市民として私個人の話であるが、私は福知山線の駅の近くに住んでおり、子供は他県の大学に在学している。子供が帰省する際、「西脇市駅まで迎えに来て」と言うが、「ちゃんと電車が通ってるし、しっかり電車に乗って帰っておいで」と言って、加古川線を利用して帰省させるようにしている。住民一人一人がこういった意識を持つことが大事ではないか。大事なもののほど、無くして初めて大切さがわかる。そういった意識を地域住民が持っていくには、地道な活動の継続が必要である。

#### 【内藤オブザーバー（西脇高等学校長）】

一昨日、探究活動の成果発表会を西脇市のオリナスホールで開催し、2年生男子のグループが「JR 加古川線の存続のために」というテーマで発表した。加古川線をテーマにした動機は、「廃線は地域住民の生活に悪影響を与える」「阪神間や日本海につながる鉄道路線は西脇市の魅力の一つである」「加古川線活性化のために高校生にできることを探りたい」ということであった。

研究方法の1つ目は、全国的な地方鉄道存続の成功事例が参考にならないかということであった。調査した結果、成功事例の共通点は、鉄道への沿線自治体からの財政支援、第三セクター化、イベント列車等の観光資源化であった。2つ目は、西脇市駅でアンケート調査を実施した。その結果、利用者のうち、5割が60歳以上の通院利用、3割が学生の通学利用であった。この結果に対し、「車の免許を持っていない学生や通院される高齢者にとって、乗りたい時間に電車が運行していないことの影響が大きいのではないかと。列車本数を増やせないか。」と考察した。3つ目は、グループの1人が昨年8月の「令和7年度西脇市高校生議会」で質問することであった。そこでは、増便要望のほか、倒木等の対策やすれ違い路線の復活などを質問した。次に片山市長を訪問し、ICカード導入、ダイヤ見直し、第三セクター化等を要望した。これに対し市長は「財政的には一筋縄で解決できるものではない。しかし、この路線は、阪神・淡路大震災の時の迂回路となった。リダンダンシー機能として大事である。」との意見をいただいた。これらの経験で彼らは高校生の力だけで提案した内容を実現することは簡単ではないと感じたようで、今は高校生にもできることとして、鉄道を利用した市民対象の旅行企画を検討中であ

る。また、片山市長から、高校生自らが旅行で使うことも企画してはどうかとのアドバイスをいただき、加古川線を利用した学年遠足について検討している。

#### 【成田委員（北播磨県民局長）】

北播磨県民局としての万博期間中の利用促進策は「できることは全部やる」という方針、覚悟で取り組んできた。昨年6月の「北播磨かんきょうフェスタ」を皮切りに7月、8月、11月の3回、リレーマルシェを地域協議会の皆様とも連携して開催し、多くの方に加古川線を利用して来場いただいた。また、西脇市、丹波市が定期券購入などの利用助成、地域協議会が乗車利用の働きかけや利用実態調査、行政機関で構成する利用促進協議会でのラッピング電車運行などの取組、JR西日本による臨時増便など、関係者の皆様におかれても、我々と同じ思いで、できる取組は全て実施していただいたように思う。

万博期間中の県内への入込者数は、当初想定より伸びなかった状況の中、輸送密度が350人となったのは、地域が一生懸命頑張っ取組んだ結果である。やはり北播磨、丹波地域にとって「JR加古川線はなくてはならない」という思いが今回の利用者増に繋がったのではないか。今後、国の方針で私立高校の授業料が無償化されると、高校生の通学範囲が変動する。中学生の進学先の選択肢を増やす意味でも、鉄道の存続は重要である。また、阪神・淡路大震災の時、加古川線が山陽本線不通時の代替路線として大変な役割を果たしたことを考えると、鉄道ネットワークの維持ということは非常に重要だと考える。

万博期間中の利用が大きく増加し、さらなる利用に向けた気運が高まっている。移動手段として自動車しか選択肢がなかったところに、電車という選択肢も芽生えていると思う。

北播磨県民局としても、来年度もリレーマルシェや利用促進協議会事業を継続して実施し、利用促進に努めていきたい。

#### 【糟谷委員（丹波県民局長）】

大阪・関西万博期間中の輸送密度が1日あたり350人となり、対前年度比約20%の大幅な増加になったことは、地域の皆さん、JR西日本、行政などがそれぞれ利用促進に取り組んだ結果である。先ほど、JR西日本から臨時増便の結果について、電車1本当たり10.5人で少なかったとの話であったが、私は、この臨時増便が、乗り継ぎが悪く、長い待ち時間があつた昼間の加古川線の利便性を大きく向上させ、利用促進に大きな効果があつたと考えている。今回の臨時増便に合わせた地域や行政の利用促進に取組によって一層の利用促進が図られたのではないか。

万博終了後も地域や行政一体となってランタンイベントや、ラッピング車両の運行、恐竜ARなど、継続して利用促進に取り組んでいる。12月のリレーマルシェ「谷川昼市」では、増便が無くなったので西脇方面からの列車が昼間2本だけであつた。増便があれば利用者はもっと増える。要は、乗る機会が増えれば意識も変わってくる。この万博期間中に加古川線に関して「これからも乗りたい」という新聞への投書を何回か見た。ここで増便が無くなると利用の勢いに「冷や水」を浴びせることにもなるので、引き続き増便を強くお願いしたい。

丹波県民局では、来年度も久下自治振興会と協力して、リレーマルシェを継続開催し、地域の賑わいを作り出すとともに、利用促進協議会において、加古川線の利用者数の向上と地域の気運醸成を図るため、様々な利用促進策を実施していきたい。

### 【片山委員（西脇市長）】

先月 29 日に、令和 3 年度から利用者が 1.7 倍増加したことを国土交通省に報告した。また、加古川線はリダンダンシー機能として大切であり、阪神淡路大震災時にその機能を発揮したこと、今後は、福井県の原子力発電所で災害が発生した場合、約 1,500 名強の方が加古川線を利用して西脇市に避難するケースが想定され、ネットワークとしてつながっている必要があることを国土交通省に説明した。

12/1 に JR 西日本が当市など関係機関に調整のないまま、当市と連携した加古川線沿線樹木伐採について記者発表された事に対して、事前に十分調整いただきたい旨の申し入れを JR 西日本に行った。今後は、倒木の危険がある場所の情報を共有するなどして、JR、地域、行政で連携できるような取組を進め、安定的な運行に協力していきたい。

3/14 には日本へそ公園駅で市制 20 周年記念のおもてなしイベント「肉バル」を開催する。鉄道での来場もしやすくなっている。皆様のご来場をお待ちしている。万博期間中の輸送密度が大きく伸びたが、特に地域の人が頑張った 9 月や 10 月の(単月の)輸送密度のデータを提供願いたい。市民の皆さんのモチベーションを上げ、継続的に乗車活動をしていただけることに繋がる。

### 【林委員（丹波市長）】

JR 西日本の臨時増便や北播磨、丹波両県民局、西脇市とともにリレーマルシェなどのイベントの実施、沿線地域の皆様のイベントへのご協力や、チラシ啓発などの取り組み、商工会やその他の皆様も広報などご協力いただきお礼を申し上げる。

加古川線の臨時増便は利用促進をする上で本当にありがたかった。私はいつも「乗れる電車を作ろう、乗れるバスを作ろう」と言っている。イベントや会議開催においても、電車が 1 時間に 1 本程度あると利用しやすいので、改めて運行本数が多いことは貴重であると思った。地域協議会や市民においても加古川線の存在を大切にしたいという思いや、利用促進への熱量が日増しに伝わってきている。

先月開催された丹波市の成人式で、ある若者が加古川線についての動画を発表してくれた。昔の加古川線の貨物輸送の歴史から鍛冶屋線の廃線など、現地へ出向き、自分なりに学習して動画を作成し、発表の最後に「日本で魅力の無い地域はない。地域交通を守ろう」と出席者に呼びかけてくれた。未来を担う若者が社会課題について自ら考えて発表してくれたことが本当に嬉しく、また、住民の皆さんが加古川線にしっかりと目を当てるようになったということが大変ありがたいと思う。この若者や地域住民の熱量に応えるためにも、利用促進に向けて引き続き皆さんと一緒に知恵を出し合いながら取り組んでいきたい。

**【平田委員（JR西日本（株）兵庫支社長）】**

西脇市長、丹波市長には大阪・関西万博等の誘客機会をチャンスと捉え、地域住民を巻き込んでいただき、生活利用・観光利用の両面でより一層の利用促進にご支援を賜わり感謝。また兵庫県におかれても、広域的観点や側面支援・後方支援に多大なるご尽力を賜り、重ねて感謝申し上げます。

万博閉幕までの期間、このような連携した利用促進の取り組みにより、万博期間終盤のご利用が増加したと考えている。なお、誘客機会を捉えた利用促進を実施したが、外からのご利用である普通（定期以外）利用よりも、地域の移動である定期利用が増えていたことも明らかになった。

当社としては、こうしたご利用の増加が持続的なものになるのか、地域の移動に関するニーズの把握等により、分析・検証する必要があると考えている。

については、兵庫県、西脇市、丹波市、私どもJR西日本による勉強会の設置を提案する。

**【多田事務局長（北播磨県民局県民躍動室長）】**

JR西日本の平田支社長から、今回の取組について更なる検証、分析が必要との意見をいただいた。ただ、このワーキングチーム会議は、利用促進策を議論する会議であり、事務局では今後の進め方について判断しかねるところがあるので、本日、会議に陪席している兵庫県土木部交通政策課長に、今後の進め方について確認させていただきたい。

**【小崎 兵庫県交通政策課課長】**

JR西日本の平田支社長から提案があった勉強会については、加古川線の利便向上につながるような場になるのであれば、意義があると考えている。その目的や内容を、きちんと詰めさせていただいた上で、西脇市、丹波市とも相談をさせていただき、対応を検討したい。

**<閉会あいさつ>**

**【林委員（丹波市長）】**

本日の会議では、令和7年度の取組報告とともに、加古川線の更なる利用促進に向けて貴重なご意見やご提案をいただいた。今年度の大阪・関西万博期間中、皆様のご協力により乗車人員が増えたことについて改めてお礼申し上げます。今後のご協力をお願い申し上げ、閉会の挨拶とさせていただきます。

以 上